

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2
自然とのふれあいの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

自然環境課長 森脇 幸

電話番号

0852-22-5346

事務事業の名称	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	
目的	(1) 対象	県民及び県を訪れる人々
	(2) 意図	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。
事業概要	三瓶山及びその周辺の豊かな自然の中に設置した「三瓶自然館サヒメル」等を活用し、自然とふれあい親しみながら、島根県の自然環境や自然史に関する展示、天体観察を通して、質の高い自然学習の機会を広く県民に提供することを目的として、下記事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・三瓶自然館サヒメル等の指定管理委託 ・小豆原埋没林公園保存検討と保存処理の実施 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	サヒメル等の利用者数	目標値		147.0	147.0	147.0	147.0	千人
	取組目標値								
	式・定義	サヒメル等の利用者数	実績値	131.0	141.0	133.0			
			達成率	-	96.0	90.5	-	-	%
2	指標名		目標値						
	取組目標値								
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	308,243	329,395
うち一般財源 (千円)	296,378	300,143

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

1. 三瓶自然館及びその付属施設については、指定管理者が下記事業などを実施 ①企画展等の開催 (春、夏、秋、冬の4回)、自然観察会、天体観察会 ②各種イベント開催などを通して、自然に対する理解を深める取り組みの実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動 (PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) 2. 小豆原埋没林公園保存処理 三瓶小豆原埋没林保存処理方法についての方針決定を行った。平成30年度は展示棟内保存対策、H31年度は展示棟内・外保存対策を行う。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

・三瓶自然館及びその付属施設については、企画展やイベントの積極的開催などにより、一定の集客ができた。
 ・小豆原埋没林の保存について、問題点や工法検討を進め、平成29年度から保存処理を行うこととなった。平成30年度も継続して行う。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・三瓶自然館の展示内容について、学術的価値や最新の情報が十分に伝えられていない。
- ・企画展を実施していない期間の来館者数が少ない。
- ・小豆原埋没林について、来館者にその価値が十分に伝えられない。
- ・外国人の施設利用がほとんどない。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・三瓶自然館の展示品について、施設・設備の整備後年月を経て陳腐化してきている。これまで展示内容も大幅な更新をしていない。
- ・三瓶小豆原埋没林公園には、展示解説的な施設・設備がほとんど無い。
- ・外国人の来訪を促す取組みをしていない。

③原因を解消するための「課題」

- ・三瓶自然館の展示内容については、学術的な内容や、今日的なテーマ設定、展示解説の手法など未整理。
- ・小豆原埋没林について、ガイダンス施設の整備が必要。
- ・地域全体で外国人の来訪を促す取組みを必要とする必要がある。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 国立公園満喫プロジェクトの拠点施設として三瓶自然館を再整備する。
- 整備にあたっては、有識者や地元の意見を聞き、フィールドと融合して楽しめる施設、島根の自然を分かりやすく解説した施設へ更新する。
- 国立公園満喫プロジェクトのサブ拠点施設である三瓶小豆原埋没林公園は、国指定の天然記念物である埋没林を解説するガイダンス施設が必要であり、三瓶自然館の再整備と共に整備を行う。
- 外国人対策として、ホームページや館内施設、展示品の多言語化を行うと共に、国や市・地域と連携し、案内マップや標識の多言語化も図る。
- 新規来館者対策として、ホームページやSNSによる情報発信の充実、各メディアの活用、観光協会等と連携しPRを行う。
- リピーターを増やしていくため、常設の展示内容や子供が楽しめるコーナーの充実を図るほか、三瓶自然館を登山やトレッキング、サイクリングなど季節を感じ自然を楽しむための拠点として体制整備を行うとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。